

は君かもしれない。だから僕は君のために代わり  
に太っているととっても過言ではないんだ。」

普通の人「：だから？」

おでぶちゃん「その余ったドーナツ食べていい？」

「フライ」 走っている電車の中の虫ってどう  
やって飛んでの。走っている電車と同じスピー  
ド出して飛んでるってことかな

「高所恐怖症の人は天国に行けても楽しめない  
件について」

主：おれ高所恐怖症なんだけどどうすればいい？

\*：下を見ないで前を見るんだ

\*：天国行きを断って地獄に行く

\*：俺たちはどうせ天国に行けないから

\*：毎日、目をつぶって過ごす

\*：お前は天国行けないからおk

\*：毎日、アイマスクを装着して過ごす

\*：目玉をとる

\*：それはもはや地獄やへ目玉をとる

\*：いま天国は入場規制掛かってるから入れない

\*：まじ？へま天国入場規制掛かってるから入れない

\*：なんかCD買わないと閻魔様にも会えないらしい

\*：なにその人気

\*：しかもCDに付いてるの握手券だから天国

## 夜の詩<sup>うた</sup>

「いざない」

日が沈む

人々の騒めきが引くにつれて

夜の顔が

ぼつんぼつんと現れる

ずっとこつちを見ている

最後の明かりを消すと

彼らがずっとそばに寄ってきて

音のない

夜の足音を聞く

真っ暗闇に包まれた

世界の輪郭を失った

きつとこは

どこでもない

行きの手続きしてもらえない

\*：どっかのアイドルかw

\*：ヘブンローテーション

\*：Heaven day、カチューシャ

\*：TGK48か

\*：なんだ、閻魔様ってブスなのか

\*：わろたwへなんだ、閻魔様ってブスなのか

\*：マジレスすると、天国なんてないから大丈夫

\*：死んでから考えよう

\*：おれ暗所恐怖症だけど地獄行きて言われた

「男の子と女の子」 男の子は必死だ。学校の授

業中にテロリストが襲来した時の想像をして対策

を立て、さらにテロリストに捕まった好きな女の

子を助ける方法も板書を取りながら考えている。

女の子は吞気だ。そんなとき手紙を交換している。

「男の子と女の子2」 男の子は必死だ。学校

の授業中に大災害が起きたことを安全に逃げる方

法を考え、さらに逃げ遅れた可愛い女の子を助

けに行つて二人で生き残る術を、練習問題を解

いていない時はいつも考えている。

女の子は吞気だ。そんなときツイッターを見ている。

「夜なぐさみ」

とある夜に

人々は滅茶苦茶なことをする

冷えた風にも負けず

夜通し街を練り歩き

酒を飲み

うたを唄う

勝ち負けもなく

善と悪もなく

争いや親しみもない

そんなことがあってもいい

行進は続く

明けない夜が

泣かないように

「男の子と女の子3」 男の子は必死だ。学校

の授業中に人気の無い所で不良に絡まれた女の

子を助け）ry

女の子はそんなときフェイスブツ）ry

「夢」 園が抜ける夢と人に追いかけられる夢

とえつつな夢はだいたいみんな見てる

つまりみんな園が抜けるし、人に追われるよう

なやましいこともしているし、やっぱりすけべな

んだなあ

「見た目が」 赤ちゃんとおっさんってけつこう

似てる

「都の闇」

都の闇は生きている

人々が新しく覚えた

夜に命を削ること

そんなことを

見守っている

都の闇は働いている

点滅、交錯、反射

光はいそがしい

そんなものを

泳がせている

都の闇は死なない

祭り上げられた男が建てる

高いビル

格好の逃げ場所を

与えてくれる

外国語学部  
英語英文学科3年

田中稜平

都の闇はそばにいる  
口を開けても  
何も君の前を  
照らさないのなら

文明が生み出したもの  
高尚な快樂と  
指一本の仕事率  
そして作り物の夜明け

# あおいろ詩繡

『生きている蒼い宝石の中で』

白い砂浜に残る小さな足跡 潮風に抱かれる心  
きらきらと続くさざ波の音は 蒼い夢の中に溶  
けては消えてゆく  
瞳に覗いてくる きらきらな蒼は 呼吸している  
宝石達

太陽に抱かれて キセキは蒼色に輝き 生きる宝  
石となって この星を廻していく  
もしかして他に この星が蒼い理由は  
僕達の想像や願望を光に照らしたら 蒼かった  
からかもしれない

涙の味が広がる蒼い夢  
貝がらに隠れてい夢の粒  
メッセージを残した砂浜の手紙は さざ波で届け  
る一つの気持ち

手にすくって溜めた きらきらな蒼は 生命輝く  
宝石達

太陽に抱かれて キセキは蒼色に煌めき  
命あふれる宝石となって この星を廻していく  
僕達が歩むこの星の足跡は 生きている蒼い宝  
石とともに息をしている  
一日 一日 生きているんだ

この星の七十の隙間に  
太陽の不思議な歌が広がり  
キセキは 蒼い夢に産まれてきて  
この星を廻している  
僕達も生きている

太陽に抱かれて キセキは蒼色に輝き 生きる宝  
石となって この星を廻していく  
太陽の我がままで キセキは蒼色に輝き 生きる

経済学部  
経済学科 3 年  
伊藤 洋佑

宝石となって この星を廻していく  
蒼い夢とともに この星が廻り 僕達の足跡も  
一緒に乗せながら  
ともに生きていくんだ